

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校協働活動の取組事例

「ふるさと科」を核として学校・家庭・地域が連携・協働する教育活動（岩手県 大槌町）

取組の概要や経緯

復興・防災を基盤とした「生きる力」・「ふるさと創生」の教育を推進し、**ふるさとの将来を担う人材の育成**を目指してきた。

学校・家庭・地域が一体となり子供たちを育む仕組みとして「小中一貫教育」を導入し、**その柱として町独自の学習領域「ふるさと科」を創設**。

内容

学校支援地域コーディネーターが、学校や地域住民等との連絡・企画調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある活動を充実させている。

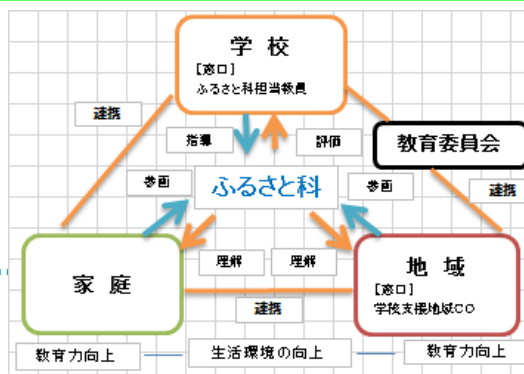
「ふるさと科」では、**復興に取り組む地域産業に関する学習、防災教育・ボランティア教育・福祉教育・キャリア教育**といった必要な教育内容を盛り込み、**継続性、系統性を重視したカリキュラムを9年間にわたって実施**することにより、地域参加型の豊かな体験の創出と学びの充実を図っている。ここでは、多くの町内の個人商店をふるさと科の講師等として招くことで、「新巻鮭作り」や「わかめの学習」等の創意工夫のある多様な活動をサポートしている。

ポイント

- ①町内全ての学校行事を記載した「**学校支援地域カレンダー**」を配布し、情報を共有。
- ②**学校内に「井戸端会議室」を設置**し、コーディネーターが常駐。
- ③地元の有志「はまぎく若だんな会」をはじめとする地域人材の活用による地域との連携・協働の推進。
- ④教育委員会、コーディネーターと各学園の教員との「**打ち合わせ会**」を実施し、意思を疎通。

成果

- ・学校の担当教員が代わっても、「井戸端会議室」に常駐するコーディネーターにより、連携がスムーズに行われた。
- ・「学校支援地域カレンダー」で家庭・地域住民が児童生徒の放課後等の動向を明確に把握できるようになり、子供たちを皆で見守る体制づくりに役立った



今後の方向性

- ・目標に対する子供の成長した姿や地域ボランティアの意識の変容等をしっかり見取り、年間指導計画を見直しながら、より充実した「ふるさと科」を実施する。
- ・コーディネーターの後継者等の育成を図る。